

平成 30 年度
「文京学院大学インターンシップ」
実施報告書

(2019 年 2 月 4 日～3 月 1 日)



丸森町大内地区
地域おこし協力隊
三浦 昌志

目次

I.インターンシップ実施概要	1
1 実施目的	1
2 募集方法および参加者	1
3 開催日時	1
4 開催場所	1
5 テーマ	1
6 プログラム	2
7 活動風景	3
8 実施結果	4
①インターンシップ実施結果について	4
②今後のインターンシップについて	4
9 考察	5
II.インターン生と交流をしてくれた地域住民へのアンケート調査概要	6
1 調査の目的	6
2 質問項目概要	6
3 回収結果	6
4 インターン生と交流をしてくれた地域住民へのアンケート調査結果	7
III.今年度の取り組みについて	10
1 継続主旨・目的	10
2 開催日時	10
3 プログラム	10
4 学生と町のメリット	10
IV.目指すべき目標、方向	10

I. インターンシップ実施概要

1 実施目的

- ・現在、大内地区の魅力や課題点を明確化出来ていない現状である。その対策として若い学生に来てもらい、ワカモノ、ソトモノの視点で魅力や課題点を明確化してもらうために、実践型インターンシップを実施した。
- ・今後もインターンシップの受け入れを行い、持続的なインターンシップ実施のための収益化を目指した実験的取り組みとして、まずは実績づくりから始めた。
- ・母校の授業でインターンシップと同じようなプログラムがあるため、それを活用しながら実績を作っていく。また母校の教授とは連絡をすぐにとれるため、プログラム作成や方針等も話し合いながら出来ると思い、母校からインターンシップを始めた。

2 募集方法および参加者

- ・募集方法：授業の候補地一覧に名前を記載していただきました。また、授業内で告知も行った。
- ・参加者：文京学院大学人間学部コミュニケーション社会学科2年生男性 府川隼人

3 開催日時

- ・2019年2月4日(月)～3月1日(金)

4 開催場所

大内地区協議会(宮城県伊具郡丸森町)

5 テーマ

「まちづくり・田舎暮らし」

6 プログラム

2019年（平成31年）	
2月	内容：目的
1週目	町を知ってもらう：1ヶ月滞在するため地区を知ってもらう 色々な人と交流：話して・聞いて・感じて地区を知ってもらう
2週目	大学生ツアー①のお手伝い：他大学との交流を通じて地区の魅力・課題を知ってもらう
3週目	大学生ツアー②のお手伝い：他大学との交流を通じて地区の魅力・課題を知ってもらう 企画案作成：今まで滞在して感じたことから、課題解決型の企画案を作成してもらう
4週目	大学生ツアー③のお手伝い：他大学との交流を通じて地区の魅力・課題を知ってもらう 企画案作成：今まで滞在して感じたことから、課題解決型の企画案を作成してもらう 報告会：1ヶ月滞在して感じたことを地域の方に発表する

7 活動風景



8 実施結果

①インターンシップ実施結果について

- ・大内地区の課題解決や外部からの受け入れを行うための準備として母校の学生にインターンシップとして来ていただいた。
- ・事前に学生と意見交換を行い、学生や今後について話をしていく予定だったが、学生の体調不良等もあり事前に意見交換があまりなされないまま当日が近づいてしまった。
- ・当日を迎えた初日は、学生の性格、趣味、目標等を聞き、人となりを理解してからインターンシップ業務を始めた。
- ・地区の課題や魅力を見せるだけではなく、色々な方と交流や宿泊を行いながら地域を知ってもらうことにした。受け入れ先については事前に相談を行い、同意書も記入をしてもらった。
- ・交流をしてくれた方へのアンケート結果を見るとインターン生との交流を通じて「色々なお話を聞いた」、「新たな発見があった」と意見があった。外からの視線は地域の方にとって新たな刺激になった。
- ・報告会を実施し、大勢の方に参加をして頂き、「とても良い刺激になった」、「インターンは必要だと思った」と意見が出たため、今後も継続をしていくべきだと思われる。

②今後のインターンシップについて

- ・インターン生が地域の課題点として「農業をやる人が少ない」、「一番といえる特産品がない」を挙げ、その解決案として「若者との交流を通じて農業や特産品の販売拡大」を提示した。
- ・この解決案を実現するために、文京学院大学の文化祭でチラシを置きながら、野菜と郷土料理の販売を行う。文化祭で丸森町の知名度を上げ、その後のツアーに参加をしてもらい、ファンを増やしていく。
- ・この企画はインターン生一人だけで実現をするのは難しいため、夏に来るインターン生と一緒に実施できるようにサポートをしていく。
- ・インターン生に今後やって欲しいこととして、「農林業体験」や「料理関係」等の意見があった。今回は交流のみだったが、次回は地域の方が普段の暮らしや農作業等をインターン生に教えたいのかと思われる。

9 考察

- ・地域の方との交流前には、インターン生に地域の方の情報を教えたが、地域の方にはインターン生の情報をあまり教えていなかった。そのため交流をしながら知ってもらいましたが、何を知りたいかを詳しく分かるまでに時間がかかってしまった。
- ・当初の計画では直売所の活性化として、企画書を提出してもらい実践してもらおう予定だったが、本人の性格やスケジュールの都合上実行は難しいと判断をし、報告会でプレゼンをしてもらうことにした。
- ・インターン生は企画作成をしたことがなかったため、なかなかスムーズには行かなかった。少しずつ何に悩んでいるのか、どうしてその企画を考えたのか質問を何度も繰り返しながらプレゼン資料作成のアドバイスを行った。
- ・私自身は受け入れから宿泊まで1ヶ月間ずっと一緒に行動をした。また初めての受け入れと初めて業務の後輩ということもあり不慣れでやり方等分からない所が多くあった。そのためメンターとして丸森町地域おこし協力隊の柴田北斗さんに相談を行いながら実施を行い、私自身も成長することが出来た。

Ⅱ.インターン生と交流をしてくれた地域住民へのアンケート調査概要

1 調査の目的

本調査は、インターン生と交流をしてくれた地域住民を対象としたアンケートである。

2 質問項目概要

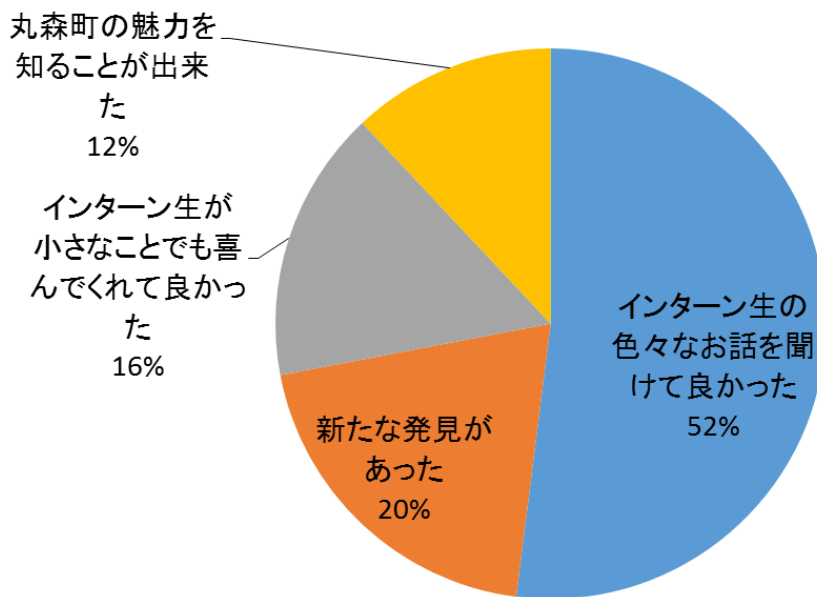
- 1 インターン生と交流をして良かったところ(複数回答可)
- 2 インターン生と交流をして大変だったこと(複数回答可)
- 3 インターン生の情報について(複数回答可)
- 4 当日の交流時間について
- 5 今後インターン生に体験をさせたいこと

3 回収結果

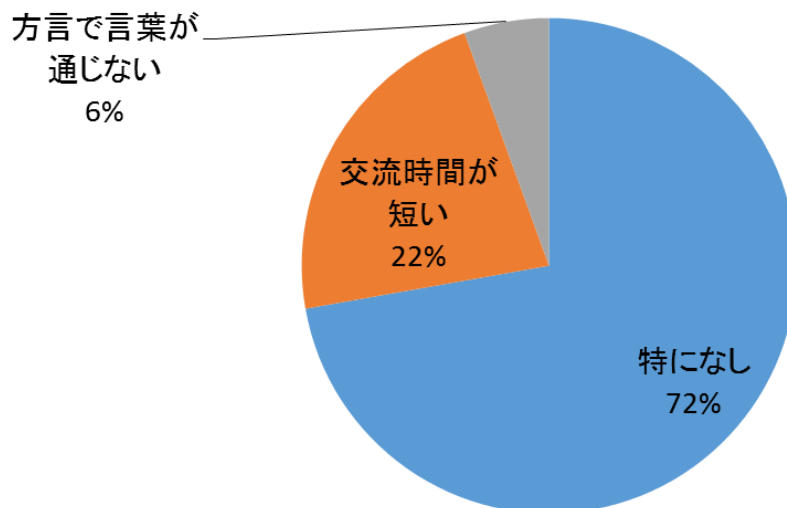
回答数 18 票(回収率 90%)

4 インターン生と交流をしてくれた地域住民へのアンケート調査結果

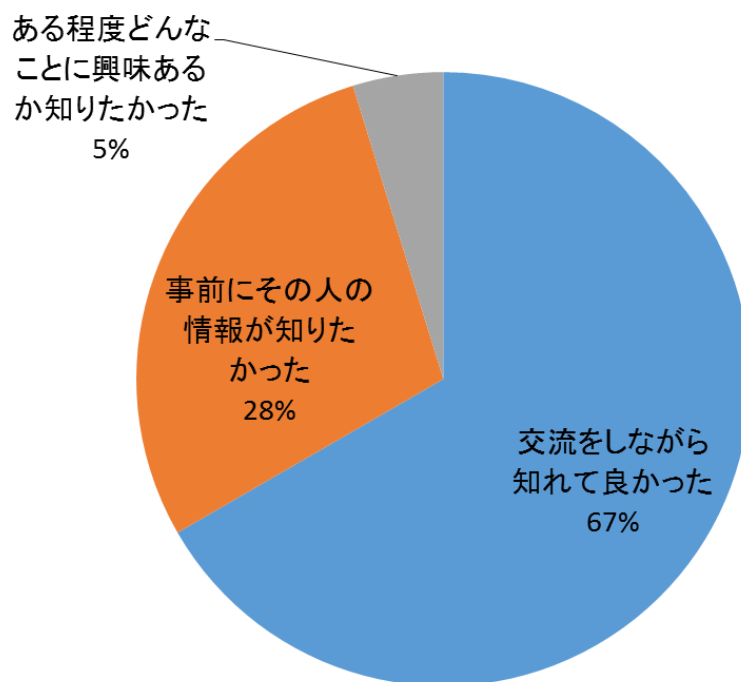
Q1. インターン生と交流をして良かったところ (複数回答可)



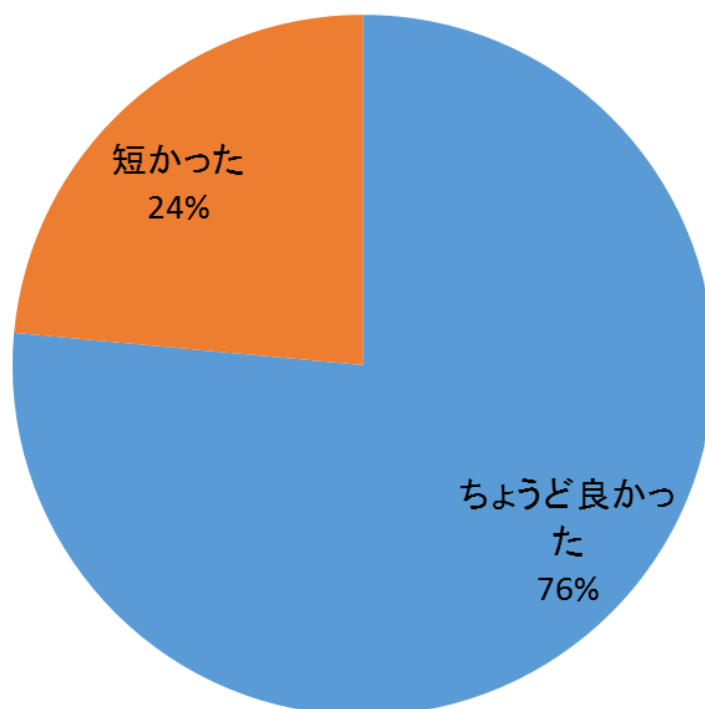
Q2. インターン生と交流をして大変だったこと (複数回答可)



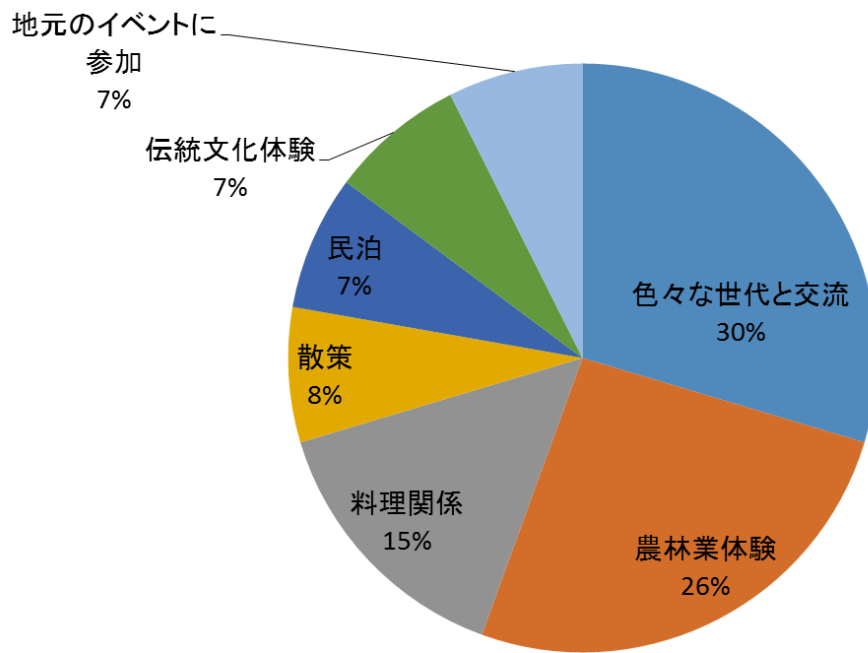
Q3. インターン生の情報について (複数回答可)



Q4. 当日の交流時間について



Q5. 今後インターン生に体験をさせたいこと



Ⅲ.今年度の取り組みについて

1 継続主旨・目的

- ・インターンシップは学生の成長に繋がるのはもちろんですが、地域としても外から来た人が一生懸命取り組むことによって自分事のように考える人が増えてくる。
- ・また外からの目線が入る事で、マンネリしていた考えに新たな風が吹き、新しい取り組みを行う様にもなり、町の活性化や交流人口増加にも繋がる。
- ・地域の活性化、交流人口増加に向けて、今年度もインターンシップの実施を行う。

2 開催日時

- ・2019年7月頃から1ヶ月
- ・2020年2月頃から1ヶ月

3 プログラム

- ・田舎暮らし
- ・まちづくり

4 学生と町のメリット

- ・学生のメリット：①知らない土地で1ヶ月間学ぶことで座学では分からない部分まで学べる。
②色々な方と交流をすることでビジネスマナーやコミュニケーション能力等が身につく。
- ・町のメリット：①ワカモノ、ソトモノの目線で新たな発見が得られる。
②マンネリした業務に刺激を与える。
③交流した方や担当者の成長に繋がる。

Ⅳ.目指すべき目標、方向

- ・目指すべき目標：①丸森町で成長したと答える学生を年間5人輩出する。
②意識が変わったという地域住民の方を60%増やす。